とうきょう　すくわくプログラム活動報告書

園名	社会福祉法人楽山会　第二椎の実子供の家
施設所在地	三鷹市上連雀 6-25-31
日時	2025 年 10 月～12 月

１．　活動テーマ

＜テーマ＞

『自然』～身近な自然物に触れてみよう～

＜テーマの設定理由＞

・夏から秋、冬への季節の移り変わり、園庭にはどんぐりの実が落ちていて子どもたちも興味を持って拾ったり、集めて遊びに取り入れたりしていた。園庭には、春はももの実、秋はどんぐりが落ちていることが多いが、散歩先では多くの種類の自然物と出会うことができる。子どもたちが楽しく、身近な自然物と触れ合う機会を設けたいと思い「～身近な自然物に触れてみよう～」というテーマを設定した。

２．　活動スケジュール

・葉っぱや木の実を拾う。10 月
・自然物を観察する。11 月
・自然物で制作活動をする。12 月

３．　探究活動の実践

＜活動の為に準備した素材や道具、環境の設定＞

・ipad　・カメラ　・顕微鏡　・電子黒板　・図鑑　・絵本

＜活動の内容＞

・散歩に出かける。
・葉や枝、木の実、石を拾う、集める、触れる。
・落ち葉を使って制作をする。（おちばおばけを作ろう）

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり＞

＜散歩＞

・保育園と公園に落ちているどんぐりと比べて大きさ、形、色、重さが違うことに気づく。「保育園にあるどんぐりより、細長くて、大きい」「沢山落ちているね」「茶色じゃなくて緑色のどんぐりもある」と話す。

・木の標識から「マテバシイ」という種類のどんぐりであることを知る。

・銀杏の葉っぱが落ちいていることを喜び、両手いっぱいに集めていた。１枚１枚、大きさや葉の裏表の質感が違うことに気づく。銀杏の葉の茎を持って向きを揃えて持つと「花束みたいにみえる」と話す。

＜観察＞

・木の実がチクチクすること、表面が何枚にも重なっていることに気づいていた。

・木の実の匂いをかぎ、「草っぽいにおいがする」「なんにもにおいしない」など感想を友達と言い合っていた。

＜制作＞

・散歩先で集めてきた落ち葉が日数と共に水分が抜けたことで「パリパリになった」と話す。散歩先で触れた時と触感の違い、匂い、固さを不思議そうにしていた。

・自然物はどれも“同じ”がないため、自分のイメージするものを表現する難しさを感じているようだった。

4.　振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・散歩先でも「これなんだろう？」という言葉が多く聞かれるようになった。保育者はスマホでその場で調べることができたので、子どもたちの疑問にも丁寧に答えることができた。ただ、すぐに答えを出してしまうと子ども達の探求活動がそこで終わってしまうため、保育者が間に入って探求の繋がりを作っていく難しさも感じた。

・図鑑や絵本を見て気になる自然物や植物を調べて自分たちが見つけてきたものと“同じ”であったり、“違い”にも気づいていた。設定していない時間以外でも子ども自身が主体的になって比較してみたり、調べてみたりしようという意欲的な姿が見られたと思う。

・自然物や自然現象などに対して知識を深めるだけでなく、興味や疑問、発見などから友達同士の会話が増え、関係性がより豊かに広がっていく様子が見られた。普段関わりの少ない子同士も積極的に関わり合う姿があった。

・今回、自然物に触れる、集める、調べるだけでなく子ども達から「（自然物を使って）なにか作りたい！」という声が聞かれた。自然物を遊びに取り入れるだけでなく、自然物を使って表現する楽しさも感じているようだった。